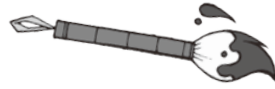


# 新・下野市風土記

## 希望に満ちた新年に向かって



下野市教育委員会 文化財課

令和2年という年が終わろうとしています。

1月に新型コロナウイルスに関する情報がメディアで取り上げられてからというもの、慌ただしさと緊張の中で、季節感のない、失望感に覆われた1年を過ごしたのは筆者だけではないと感じます。

ところで、東日本大震災後には、歴史学者・考古学者と自然科学者などが協力し、過去の災害に関するデータをまとめる研究が進みました。未来に起こりうる災害による被害を、可能な限り小さくすることを目的とするものも多く記されました。

### データでみる伝染病

過去に日本で流行した伝染病に関する記録をまとめた大著があります。

1冊は小島島果が1894年に編さんした『日本災異誌』、もう1冊は富士川游が1912年にまとめた『日本疾病史』です。

『日本災異誌』は、伝染病に限らず、自然災害や飢饉などの災害全般について年表形式でまとめられており、その一章「疾病之部」で、近代以前の伝染病がまとめられています。『日本疾病史』は、古代から近世までの日本における伝染病を、病因別に述べた概説書です。

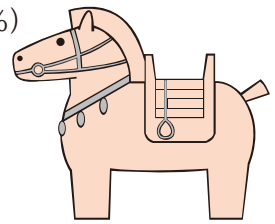
1995年には、中島陽一郎が『病気日本史』において、『日本災異誌』に記された紀元前111年から1885年までに発生した267件の伝染病を、100年単位に分けてデータ化し、伝染病の発生頻度を数量的にとらえようとしてきました。

浜野潔は、さらに『日本疾病史』の記録も加えてデータ化を進め、2004年に『「日本疾病史」データベース化の試み』としてまとめています。

これによると、『日本災異誌』と『日本疾病史』から抽出できた伝染病は480件。浜野は、このうち病名の判明している367件を50年単位に分けて、発生頻度を分析しています。

### ■50年のうち伝染病が発生した年数

698年～750年	22年 (41.5%)
751年～800年	15年 (30%)
801年～850年	19年 (38%)
851年～900年	13年 (26%)
901年～950年	18年 (36%)
951年～1000年	15年 (30%)



302年のうち102年で伝染病が発生している、つまり、3年に1回程度、疫病が発生したというデータが読み取れます。

この698年から1000年にかけては、およそ奈良時代から平安時代中頃に当たります。

ちなみに、1701年から1750年の間は46%、1751年から1800年の間は34%、1801年から1850年の間は46%と、江戸時代後期から明治時代にかけても頻繁に伝染病が発生しています。

全体でみても、1170年のうち367年で伝染病が発生、比率は31.4%。およそ3年に1度、日本のどこかで伝染病が発生していたこととなります。

先に記したように、奈良時代から平安時代中頃までが30%以上。その後、鎌倉初期（12世紀）の発生率が10%台と低くなり、室町期（12～15世紀）にかけて再度、発生頻度が上昇。15世紀後半に42%でピークを迎えます。戦国時代から徳川初期（16～17世紀前半）は20%台に低下しますが、その後17世紀後半から上昇に転じ、幕末には58.8%を記録します。

参考文献：浜野潔2004 『「日本疾病史」データベース化の試み』『関西大学経済学論集』54巻3-4号

### 伝染病の歴史 豆知識

- 16～17世紀は、飢饉の発生率が高かったにもかかわらず伝染病の発生頻度は少なかった
- 18世紀以降の伝染病には、流行性感冒の比率が高い
- 18世紀前半には赤痢・コレラ・風疹はまったく見られないが、後半になると発生頻度が上がる
- コレラは19世紀に入って世界的に流行し、日本に伝播
- 赤痢は8～13世紀まで流行 ⇒ 14～17世紀は記録なし ⇒ 18世紀に再び発生が確認される

伝染病は、日本の歴史上およそ3年に1回程度、発生していましたが、日本人はめげることなく常に前向きに生きてきました。

我々も、令和3年が良い年になるよう、希望をもって一年を締めくくりたいものです。